



日経平均株価

2万7522円26銭

▼250円67銭(前日比)

TOPIX

1927.18

▼11.35(前日比)

2022  
1/24  
月曜日

## 見直すキツカケになるか!?

### 3月期の3Q決算発表始まる

1月25日のディスコ(6146)を皮切りに3月期企業の第3四半期決算がスタートする。2月期では11日発表の安川電機(6506)が営業利益で前年同期比93.6%の大幅増益ながらアナリストコンセンサスに届かず株価は地合い悪もあり下落したが、好決算ならば仮に売り込まれた場面は絶好の買いチャンスになる。目先的には26日の日本電産(6594)など有力企業の発表が目白押しで、内容次第で日本株見直しのキツカになるかも知れない。

### 日電産コンセンサス超期待

本電産については既に第2

安川電機の決算に「以下」の内容だった。関係してはコンセンサスが、その後、ポジティブ視するアナリストが、その後の内容がどうなるか、とから、決算発表後の動きに惑わされずに内容を冷静に見極めたい。日



日本電産はEVトラクションモータの動向も注目される

四半期決算発表時に通期予想が営業利益で1800億円から1900億円(前期比18.8%増)へ上方修正されている。コンセンサスである1920億円程度を超過する再上方修正が期待されるが、EVトラクションモータで更なるポジティブな内容が確認されるかもポイントになるだろう。同日く26日は先

進運転支援システム向けコネクタが拡大する日本航空電子工業(6807)や信越ポリマー(7970)、翌日はその親会社である信越化学工業(4063)が控える。信越化学は通期営業利益で会社側予想の前

期比23.7%増の4850億円対し、80億円のコンセンサスで、今回の第3四半期で上

方修正が行われるかが焦点になる。ゲームでは26日はカプコン(9697)、2月3日に任天堂(7974)、4日はスクウェア・エニックス・ホールディングス(9684)が控える。2日のソニーグループ(6758)はゲーム事業に加えて、新会社「ソニーモビリティ」を通じて参入を表明した電気自動車(EV)の戦略も関心を集めよう。

日経平均日足チャート





ベйкаレントの日足チャート

# ベйкаレント大幅高

## 高付加価値案増え大幅増額

で510億円から565億円(前期比31.8%増)、営業利益で160億円から210億円(同50%増)へ大幅

週明け17日、ベйкаレント・コングサルテ(6532)が大幅高。2月期の業績予想について、連結売上高

### 前週の動意銘柄

上方修正、期末一括配当を100円から160円(前期115億円)に引き上げた。DXや事業戦略に関するプロジェクトを順調に受注、高付加価値案件が収益性の向上に寄与した。

#### 住江優待と赤字縮小

住江織物(3501)が急伸。株主優待制度導入を発表した。5月末の株主に

対して100株以上(200株未満で自社商品700円、200株以上)1000株未満、1000株以上で各々オリジナルカタログギフト4000円、10000円相当を贈呈。また、22年5月期第2四半期累計の営業損益は従来予想の3億9000万円赤字に対して1億7400万円赤字で着地。

## 鉄鋼値下がり率トップ

18日、日本製鉄(5401)やジェイエフイーホールディングス(5411)、神戸製鋼所(5406)を筆頭に鉄鋼株が総じて値を崩した。東証1部上場33業種で鉄鋼が値下がり率トップになった。ジェフリーズ証券が神戸鋼やJFEを含めて目標株価を引き下げたことが報じられて

おり、鉄鋼株全般に売りが広がった。

#### シユッピン大幅上方修正

シユッピン(3179)が急伸。22年3月期の業績予想について、売上高で388億3100万円から415億7600万円(前期比22.4%増)、営業利益で19億9600万円から29億6600万円

#### グレイス売り殺到

グレイステクノロジー(6541)がストップ安。延長承認を受けていた四半期報告書について、期限までに提出できないと発表した。東証は同社株を監理銘柄(確認中)に指定、1月27日までに提出できなかった場合は整理銘柄に指定された後、上場廃止となる。

#### JTEC大型受注

ジェイテックコーポレーション(3446)が一段高。23年完成予定の東北大学の第4世代放射光施設SLiTiJと世界3大大型放射

## 正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は軟調でした。日経平均は週間で602円安と3週連続で陰線を引いています。FRBによる早期金融引き締めへの警戒感から米国株が終盤に崩れる不安定な動きが続く、週後半にかけて調子を整色を強めたことから、動きになりました。グロース株売りの流れが止まず、半導体関連なマザーズ指は昨年来安。ただ、週明けの警戒感か下げたあとは下げ50円安まで戻り、個別にも下げ渋りから反発した。FOMCは先行して調整されており、イベント通過によるあく抜けになる可能性が高いでしょう。リバウンドのタイミング待ちで、好業績低PER銘柄を狙います。花咲翁



花咲翁

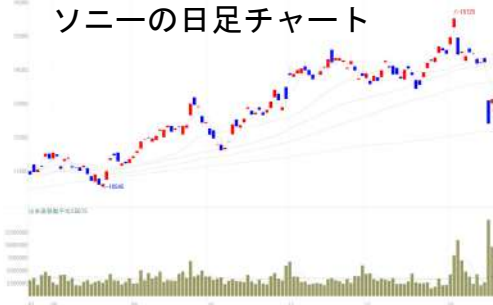
#### 好業績低PER銘柄を狙う

#### バーチャレクスS高

19日、バーチャレクス・ホールディングス(6193)がストップ高。22

年3月期の業績予想について、連結営業利益で3億円から4億8000万円(前期比2.9倍)へ上方修正した。各事業セグメントともにプロジェクト利益率の向上や販管費を含めた継続的な経費削減などが寄与している。

ソニーの日足チャート



19日、ソニーグループ(6758)が急落。米マイクロソフトがゲーム大手のアクティビジョン・ブリザードを買収すると発表したことでゲーム事業の競争激化が警戒された。買収額は約687億ドルでマイクロソフトにとっては過去最大、有力ソフトを取り込むことでゲーム事業を拡大していく。アクティビジョンはPSにもソフトを提供しており、業績へ

ソニーグループは急落

マイクロソフトがゲーム大手買収

の直接的な影響も懸念。一方、再編の思惑から任天堂(7974)やカプコン(9697)、スクウェア・エニックス・ホールディングス(9684)などゲーム関連は買われた。

リアルワールドがS高

20日、リアルワールド(3691)がストップ高。運営する「デジタルギフト」とサービス連携するライブ配信サービス「ふわっち」で貯めたポイントを「Pay Pay」で受け取る事が可能となった発表を受けた。Pay Payで受け取ったポイントが多様なサービスで決済できるようになるため、自社グループのギフトサービス

を使うふわっちユーザーの利便性が向上するとしており、利用者の拡大と収益貢献を期待した買いを集めた。

「ふわっち」で貯めたポイントを「Pay Pay」で受け取る事が可能となった発表を受けた。Pay Payで受け取ったポイントが多様なサービスで決済できるようになるため、自社グループのギフトサービス

シライ電子は新開発

シライ電子工業(658)がストップ高。ベースフィルムを使用しない基材フィルムレス透明銅張積層板を開発したと発表されたことが買い手掛かりになった。電気的な特性は従来のSPETと変わりなく、薄さ・柔らかさ・透明感を追求したとしている。

アピリツ大幅上方修正

アピリツ(4174)がストップ高。22年1月期の業績予想について、営業利益で8600万円から2億4300万円(前期比6.1%増)へ大幅に上方修正した。外注費などコストコントロールを強化した結果、原価などが大きく低減した。

松井証券

今こそ始めるデイトレード

松井証券の一日信用取引

手数料0円 金利・貸株料0~1.8%

取引コスト

プレミアム空売り

独自サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのバナーをクリック

# 空中タッチインターホン

## 大和ハウス工業

### パナソニック、アスカネットと実証実験



空中タッチインターホン  
新型コロナウイルス感染症の影響で衛生意識が高ま

大和ハウス工業(1925)はパナソニック(6752)、アスカネット(2438)と開発中の分譲マンション「プレミスト津田山」(神奈川県川崎市高津区)のサロントランスで空中で操作できる空中タッチインターホンの共同実証実験を開始した。集合住宅での空中タッチディスプレイを活用した実験は業界で初めて。

大和ハウスとパナソニックが開発した非接触でも入居者の呼び出しができる技術に、アスカネットが開発したASKA3D(空中ディスプレイ)とパナソニック製インターホンと連携、入居者や来訪者が非接触でエントランス内のインターホンを操作することを可能にし、共用部の総非接触化や消毒作業の省力化も実現する。

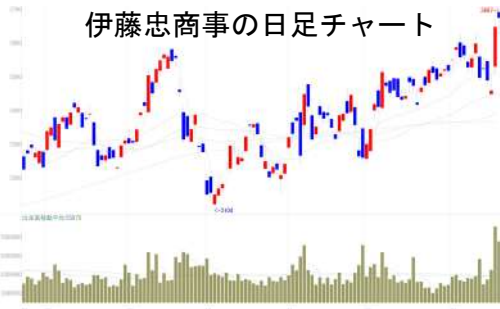
## 企業レター

伊藤忠商事(8001)が急反発、上場来高値を更新した。自己株式取得の決定を受けたこと、需給改善による株価上昇を期待した買いを集めた。上限は20万株(発行済株式)

# 伊藤忠は上場来高値

## 1.3%の自己株式取得枠設定

20日、伊藤忠商事(8001)が急反発、上場来高値を更新した。自己株式取得の決定を受けたこと、需給改善による株価上昇を期待した買いを集めた。上限は20万株(発行済株式)



総数に対する割合1.3%、または総額600億円、取得期間は1月20日から3月31日まで。基本的な資本政

## 大幸薬は措置命令

策の遂行を図るため。週末121日、大幸薬品(4574)がストップ安。消費者庁からクレベリンの一部製品について、景品表示法に基づく措置命令を受けたと発表した。二酸化塩素による空間除菌が不当表示に当たるとする措置命令案に対し、措置命令の差止訴訟を提起、仮の差止めを申し立てていたが、東京地裁は措置命令の仮差止めを決定する一

## ナスダックの変調

転ばぬ先のテクニカル  
先週の東京株式市場は3週続落となり、昨年来安値に接近してきました。3月の米FOMCで0.5%利上げ観測が高まりNY市場が大幅下落したことで売りが嵩んだ一週間となりました。NY市場の中でもナスダックの崩れが目立ち、昨年4月以来の200日線割れとなり、週足でも52週線を下回りました。これは一昨年3月のコロナ暴落以来のことです。月足ではMACDがデッドクロスし大きな変調現象が現れており、軽く考える訳にはいきません。

日経平均は昨年の安値に接近してきており、長らく続いたボックス下限が下値抵抗ラインと考え勝ちですが、もし割り込んだ場合は2万4000円まで節目がなく、今の局面で安易に押し目買いという訳にはいきません。基本的に戻り売り対処として、ポジションを出来るだけ整理して相場の落ち着きを待つところでしょう。

日々勇太郎

# 巴川増額と完全子会社化

巴川製紙所(3878)が急伸。22年3

住友金属山(5713)が大幅続伸

## 住友金属山況再騰勢

8)が急伸。22年3月期の業績予想について、連結売上高で330億円から340億円(前期比10.5%増)、営業利益で14億円18億円(前期1500万円の赤字)へ上方修正した。半導体市場やトナーの好調が第4四半期も維持する見込み。日本理化学製紙の完全子会社

住友金属山(5713)が大幅続伸を強めていると伝わったことを受け、市況上昇による収益改善が期待された。ロンドン金属取引所のニッケル先物は10年半ぶりの高値に上昇している。

## 前週の動意銘柄

# チャート から読む 騰落銘柄

## 富士急行(9010)



「ド・ドドンパ」の乗客負傷嫌気、昨年11月18日の5110円から下落基調が続いたが、1月17日の3800円で底打ち機運。25日線である4000円回復し、75日線超えの4400円までの戻り期待。

## 三和油化工業(4125)



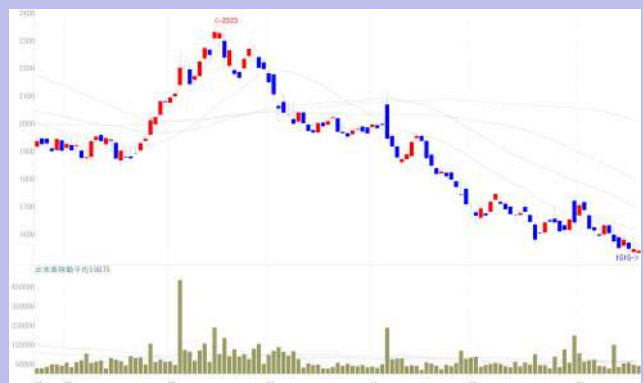
昨年末IPOで初値割れまで売り込まれたが、7日安値3490円で底入る。一旦反発のあと3800円台で下値固め5日線以上に再浮上。31%営業増益、PER18倍台と割安で、初値奪回から高値抜けへ。

## 三協立山(5932)



1月12日に22年5月期の業績予想を上方修正するも下げ止まらず、12日高値から21日には631円まで売られる。下期からは地金価格高騰の影響顕在化し、200万株超の買い残も重石で下値不安継続。

## アイロムG(2372)



25日線に上値を抑えられ、下値模索が続く。日足、週足に続いて月足も陰転の方向で一段安を警戒。経鼻接種COVID-19ワクチンへの期待から、押し目買いに信用買い残の整理が進まず上値は重い。

今週の

# 活躍期待銘柄



## ベル24HD(6184)

### 新型コロナ対策好調つづく

ベルシステム24ホールディングス(6183)の株価は全般波乱相場下ながら1月11日の1195円を底に反騰、出来高を交えて50日線から75日線を一気に突破、1400円に乗せてきた。目先的には短期調整も予想されるが、200日線超えから昨年9月14日高値56円を目指す動きを期待したい。CRM事業についてはコロナ対策のスポット特需急増の反動が懸念されていたが、3回目のワクチン接種本格化から混雑回避を優先する自治体からの需要が継続。マイナンバーと健康保険証の統合案件の引き合いが活発化する。え、AIや音声技術持つレボコム社と連携し非訪問型営業の代行業に参入した効果も今後表面化する。22年2月期の通期連結営業利益12億円(前期比3・4%増)は上振れが期待される。(と)

### 22年2月期は上振れを期待



## ADプラズマ(6668)

### グロース株ながらPER14倍

アドテックプラズマテクノロジ(6668)は22年8月期第1四半期好決算発表を受け最高値を付けたあと、ハイテク・グロース株売りの流れと全般地合い悪に押され大幅に続落しているが、切り返しを狙っていききたい。1Qは連結売上高28億8700万円(前年同期比59・8%増)、営業利益6億1900万円(同2・8倍)で着地。ファウンドリやロジックメーカーの先端投資や中国の半導体内製など半導体関連投資活発で、生産ライン増強による増収効果で利益が急拡大した。第2四半期累計計画の営業利益9億円(同2・0倍)、通期の20億円(前期比81・4%増)に対する進捗率は各々68・8%、31・0%に達し大幅な上振れが濃厚。グロース株ながらPERは14倍に過ぎず、実質最高値335円奪回から一段高へ。(さ)

### 1Q営業益2.8倍で上振れ濃厚

※チャートは日足

## 潮流

## 東証は外国投機筋の温床!!

## 価格操縦とも言える行為防止するには？

marKet/bAnk



東証が「空売り規制」をかける銘柄が急落する動きが拡大している。19

日の日経平均は一時、下落率が3%を超えた。マザーズ指数も3.5%急落した。この日に10%以上急落した銘柄を全市場で見ると21銘柄あった。全て東証が「空売り規制」をかけたものだ。

19日以外でも日々10%以上急落している銘柄は殆ど東証が「空売り規制」をかけた銘柄である。ヘッジファンドといった外国人投機筋は東証の「空売り規制」を狙って、売りを仕掛けていることは明らかだ。東証が空売り規制を発表すると同時にさらに売りを増すのだ。本来、東証が「空売り価格規制」を取り入れた背景には、株価を意図的に下落させる目的で乱用され、マーケットに混乱をもたらしてきた過去があり、株価の意図的な売り崩し行為を防止するために定められた法律である。

逆に現在は「空売り規制」が外国人投機筋の売りの標的となっている。外国人投機筋の価格操縦とも言える行為を防止するには、東証は個

別株に「空売り規制」をかけるのではなく、外国人投機筋自体に「売り規制」をかける必要がある。昨年、大幅上昇となって年初来高値を付けた新興市場の銘柄の大半は半値以下に暴落している。空売り残の

手口を見ると、殆どが外国証券だ。外国人投機筋が外国証券を通して空売りをかけていることが分かる。

外国人投機筋の存在が日本の株式市場にとって弊害以外の何者でもない。また、個人投資家は新興市場の大半の銘柄を空売りできない。このような不平等なルールで売買させること自体、間違っている。東証は外国人投機筋の空売りを禁止し、抜本的にルールを見直す必要がある。また、CTAといった外国人投機筋による「225先物を利用したプログラム自動取引」が株式市場の激しい価格変動をもたらしている。東証がミリ秒単位で売買できる超高速・高頻度のシステムサービスを開始したからだ。これが日本の株式市場に弊害をもたらしている最大の要因だ。東証は外国人投機筋の温床となっている。

潮流銘柄はAiming(3911)、Gunosy(6047)、トヨタ自動車(7203)。

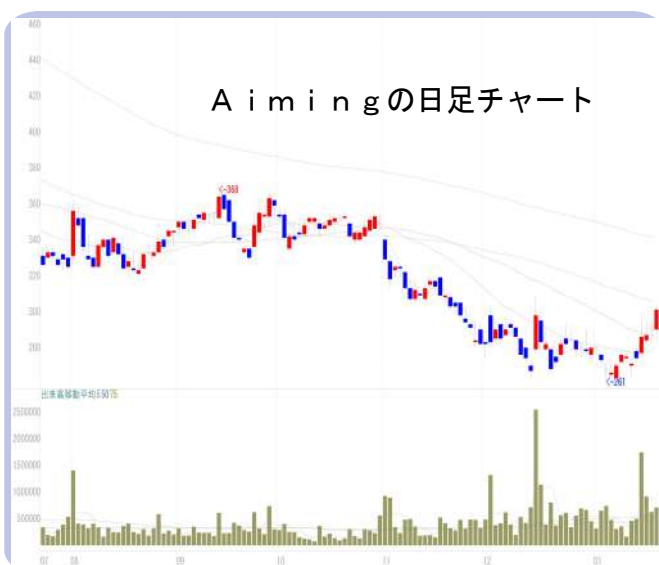
ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中

## 空売り規制狙って仕掛け



# トレンドの変化明確

## S&P500が26週線割れ

先週の日経平均は前週末比約602円安と3週連続安となった。先週は1日の中でも株価が乱高下するボラティリティの高い展開であった。インフレを抑制するためのFRBによる金融引き締めが懸念され、米国株の大幅下落に連動した形だ。

米国株では以前からこの欄で指摘していたS&P指数が2020年6月の

以来の26週移動平均線割れとなり調整局面に入ったと思われる。NYダウは20年2月以降の6日連続下落で週間の下落幅は1646ドルと20年10月以来の大きさであった。週末には四半期決算を発表したネットフリックスが大幅下落となり、他のハイテク株も売られる展開となった。

トレンドが下向きの時は悪材料に反応しやすくなっている。当面は「戻りは売りのパターンになると思われる。日本株も日中は節目の

### 敏腕先物ディーラー ハチロクの裏話

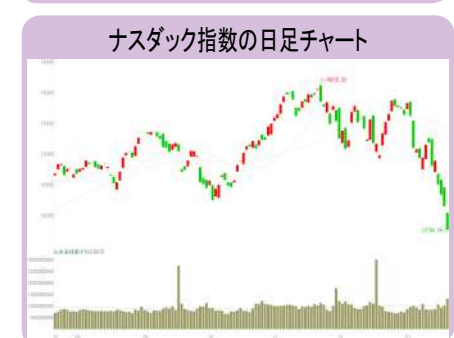


ハチロクのプロフィール  
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



FOMCへ向け波乱が続く



今週のレンジは2万6500円〜2万8000円を想定。短期売買で臨みたい。(ハチロク)

性もあり、今週も大きく動きそうである。また、VIX指数も28%台まで上昇してきており、株から債券へのリバランスも進むと思われる。下落に拍車がかかる可能性もある。とにかく、週明けの日本市場は荒れそうである。下値のポイントには21日に付けた2万7129円61銭、節目の2万7000円、8月20日の安値2万6954円、8月11日だが、筆者の記憶が正しければ8月の安値を付けた

際にはイブニング取引で先物は2万6500円台まで瞬間入っていたと思う。「イブニング取引で付けた安値高値はいずれ日中取引でも付ける」というアノマリーで考えると、この水準まで突っ込む可能性もある。

先物主導で大きく上下するときはトレンドに乗った短期売買が鉄則であろう。また、安値更新時にはプットのプレミアムが見込まれるからプット買いも一考であろう。





# 星野三太郎の 株街往来

～市場再編の効果～

東証は現在ある4つの市場区分を改め、今年4月4日から「プライム」「スタンダード」「グロース」と3つに再編する。これを受けて各企業が選んだ市場区分が発表されたが、1部に上場する企業の8割以上が最上位の「プライム」を選択した。広報担当には取材時に市場再編を雑談的に聞くことがあるが、「1部上場企業がスタンダードになると、イメージダウンから取引先や新卒採用に影響がでるのではないかと」との不安を抱く声を少なからず聞くことがある。4月再編当初は流通株式総額100億円以上など厳しい基準を満たしていなくても改善計画を提出して当面上場を維持できる仕組み。因みに大正製薬HDなど「プライム」だと思っていた企業が「スタンダード」を選択したのは驚いたが、無理せず最上位市場を選択するよりは、本業に集中できる意味で良いのではないかと思う。

日本の上場企業の全てを足してもアップルとマインクソフト、グーグルの3社合計の時価総額を超えることが出来ない現状では再編の効果はどれだけの効果かは疑問。希望より不安が高いのは筆者だけではないだろう。



## New product

**サンリオ** ゴディバ ジャパンとコラボ  
バレンタインギフトを限定販売



ゴディバとのコラボレーションギフト

サンリオ（8136）は、ベルギーの高級チョコレートブランド、ゴディバを輸入するゴディバ ジャパンとコラボレーションした「2022年バレンタイン GODIVA×ローキティ、GODIVA×マイメロディ」を全国のサンリオショップ、百貨店のサンリオコーナー、サンリオオンラインショップ限定で販売している。

今年は、ハローキティはベレー帽とリボンで、マイメロディはレースのヘッドドレスとリボンでそれぞれおめかし。それぞれ首のリボンにはGODIVAのロゴ入り。左足の裏には2022年の年号が入っているため、2022年のギフトにぴったりの仕様。ハローキティは、GODIVA G キューブ ミルクソルテッドキャラメル、マイメロディはGODIVA G キューブ ミルクがセット。

**ローキティ** 見た目も味も楽しめる  
恵方巻き3種、店頭・WEBで受付中



黒毛和牛の紅白恵方巻きセット  
ロック・フィールド（2910）が展開する惣菜店「アール・エフ・ワン（RF1）」では店頭・WEBを通じて恵方巻きの予約を1月31日まで受け付けている。

RF1では、色鮮やかな紅白のベジシート（黒毛和牛の紅白恵方巻きセット）、ほんのり甘みのある玉子（野菜と愉しむ 海老とアボカドの福恵方巻き）、メキシコ料理でおなじみトルティーヤで具材を巻いた恵方巻き（トルティーヤのサラダ恵方巻き）の3種を用意。野菜で作ったベジシートで巻いた、見た目にも縁起のよい「黒毛和牛の紅白恵方巻きセット」は予約限定商品となっている。

記者の視点  
相場見通し

# FOMC通過まで我慢

## 国内外有力企業決算を注視

下回るなかで、「景気の後退」と「インフレ（物価の上昇）」が同時に進行するスタグフレーションへの懸念が高まり、ニューヨーク市場ではダウが20日時点で昨年9月以来の5日続落という波乱の動きとなった。20日は一時ダウは46（65）ドルの上り幅になつていしたが、大引けに向けて下げ幅を拡げて313ドル安で引けていたように、不安感（69）

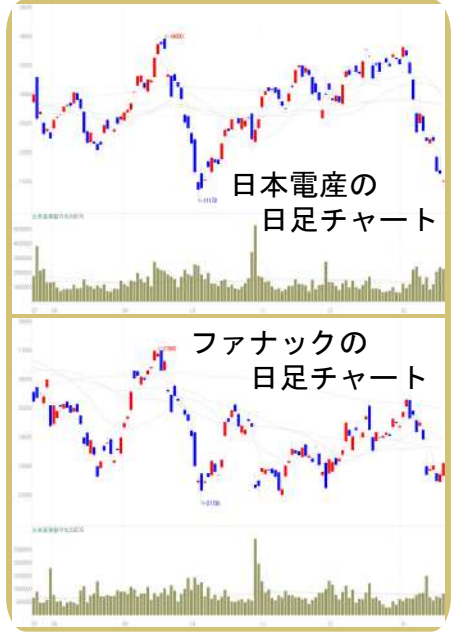
1月第3週の株式市場は3月にFRRBが大規模な利上げを行うとの観測が浮上するなかで、19日に長期金利が一時1・90%と20年1月以来の水準にまで上昇。発表された各種経済指標が市場予想を

21日は一時、2万7129円まで急落していた。その後、2万7522円まで急速に戻しているが、25日（26日のFOMC通過するまでは）は継続しそうだ。FOMCでは3月の利上げ開始と年3回の利上げは規定路線で、パウエル会長が一連の不安が払拭されるかを注視したい。来週は25日にマイクロソフト、26日にインテル、27日にアップル、ウォッチと米国有力企業が続々と決算発表を迎える。国内でも26

均も日強りから  
市場のN経平。力売りが  
動きに荒い値の連動する形で、FRRBの大規模な利上げを行うとの観測が浮上するなかで、19日に長期金利が一時1・90%と20年1月以来の水準にまで上昇。発表された各種経済指標が市場予想を

21日は一時、2万7129円まで急落していた。その後、2万7522円まで急速に戻しているが、25日（26日のFOMC通過するまでは）は継続しそうだ。FOMCでは3月の利上げ開始と年3回の利上げは規定路線で、パウエル会長が一連の不安が払拭されるかを注視したい。来週は25日にマイクロソフト、26日にインテル、27日にアップル、ウォッチと米国有力企業が続々と決算発表を迎える。国内でも26

54）を皮切りに3月期企業の第3四半期決算発表がスタートする。ファンタックも21日は全般的に相場でも引けている。決算内容と地合いが落ちれば、本格的な戻りが期待できるかも知れない。



### 当面のスケジュール

- 25日 12月首都圏新規マンション発売 (14:00)  
独1月Ifo景況感指数 (18:00)  
FOMC (~26日)  
米11月S&PコアロジックCS住宅価格指数 (23:00)  
IMF世界経済見通し発表
- 26日 1月17・18日開催の日銀金融政策決定会合の「主な意見」  
12月企業向けサービス価格指数 (8:50)  
パウエルFRB議長会見
- 27日 米10-12月期GDP速報、米12月耐久財受注 (22:30)
- 28日 東京eスポーツフェスタ (~30日東京ビッグサイト)  
米12月個人所得・個人支出 (22:30)
- 30日 中国1月製造業PMI、中国1月非製造業PMI (10:00)  
中国1月Caixin製造業PMI (10:45)

編集後記

オミクロン株の感染力の強さは海外の状況から分かってはいたが、感染のスピードは予想以上だった。あつという間に第5波のピークを上回り、過去最多を更新し続けている。重症化は少なく風邪と思つていたらオミクロンだったという人も多いようだが、後遺症についてはまだデータはない。それも後遺症は軽症だから軽いものではないという。さて、東京市場は米金融引き締めを相当織り込んだと思ふ。ただ、実体経済への影響は今後確認していく必要があるだろう。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。